

巻 頭 言

米 澤 明 憲

東京大学情報基盤センター長

何十年もお馴染みになって頂いてきた「スパコンニュース」も平成 22 年の本号から、ややクラシカルな黄色い表紙を衣替えして、新たな出発を迎える。内容はこの 2, 3 年で相当新しくなって来たから、装丁も変えて行こうという気分センターの先生や業務職員の方々になったようである。

私のセンター長職もかれこれ 4 年近くなった。思い返せば、3 年半以上前に情報理工学系研究科の石川裕先生を兼務でお迎えし、超並列スカラ型スパコンの基本設計をしていただき、その後一年余を経て、筑波大学の佐藤三久先生、京都大学の中島浩先生とご一緒にいわゆる T2K マシンを 3 大学のスパコンセンターに調達・導入した。これは国立大学系の情報基盤センターのあり方、日本のスパコンのその後在り方に大きな影響を与えたと思われる。

大学等の法人化に伴い、昨年文部科学省が、これまであった全国共同利用施設制度の法的根拠を見直し、新たに共同利用・共同研究拠点制度を創設した。これに対応して、本センターはこの共同拠点の認定を受けるために、北大、東北大、東工大、名大、京大、阪大、九大の情報基盤センターと協力した。この結果、8 大学センターは、ネットワーク型の「学際大規模情報基盤」共同利用・共同研究拠点として本年 4 月から機能することになった。

また一昨年の末には、本センターはあらたに中島研吾先生を教授として迎え、スーパーコンピューティング部門の部門長として同部門をリードしてもらうことになった。同教授は、有限要素法の並列化研究等で著名であるばかりでなく、HPC における人材育成事業も強力に推進され、同部門の片桐孝洋先生とともに本センターをハブとして、東大内外で HPC 人材養成を推進されるようになった。

以上、スーパーコンピューティング部門を中心にこの 4 年足らずの大きな変化に触れた。本年 4 月からは、おそらく新たなセンター長を迎え大きな発展をみることができると確信している。